

# 学道一如

発行  
小樽双葉高校  
生徒会通信  
2025年12月26日  
第50号

## サウスバールリントン高校へ季節の「挨拶

ドリプロのグローバルカルチャー  
専攻ではグリーティングカード  
を手作りし、姉妹校のサウスバール  
リントン高校に送りました。



飛び出すカードを作成中。



完成しました。



笑顔が広がる制作場面。



綿も素材として利用します。

## 小樽再発見②⑤ 小熊秀雄(5) 世界へ 他民族の視点も先進性、翻訳多数

一九四〇年、肺結核のため39歳  
で逝去した小熊秀雄。彼の作品は  
どのようにして世に出て、読み継  
がれるようになったのかを調査し  
た。

### 妻のつね子さん作品を守る

息子の焰さんは5年後、結核の  
ために亡くなった。20歳だった。  
妻のつね子さんは「夫の死よりもつ  
とこたえましたね。私のことを心  
配しながら、死にましたしね」と  
語っていた(平山秀興氏の録音)。  
つね子さんは秀雄の作品を東京  
空襲の間も必死に守り続け、池袋  
モンパルナスの雰囲気が残る街の、  
小熊が亡くなったアパートにひつ



双葉歴史探偵事務所  
□15□

### 星の光りのやうに

信じがたい程  
暗い、暗い、空のもとに  
我等は生活してゐる、  
暗黒と名づけようか、  
この夜の連続的なふかさを――

だがこの空の星の  
光りやうを君は見落してはいけない、  
空が暗ければ  
星は光るんだ、  
われらの意志のやうな  
微妙な強さで  
この空のもと  
地上のわれらと交驛しよう、  
星と人との  
よろこびあひに  
立会ふものは誰もゐない、  
だが星や人間は  
そのことを知つてゐる、  
人間の皮膚の色に  
艶がでたり、色がさしたり  
若さから老に移つてゆくやうに、  
星もまた若さから  
老いてゆくであらうことを、  
ただ星はそのために  
一瞬間でも  
光るのを停めただらうか、  
ああ、我々の若さから  
闘ひの移りゆく一瞬間にも  
われらはたたかひの  
意志の光を停めていっだらうか、  
ゆるしがたいことは――  
あらゆる地上のものを  
汚辱することだ  
行為の光芒を  
さへぎるものはないだらう  
若い自由な  
意志の伝達を  
地上にをいて  
星の光りのやうにすばやく行はう。



小熊秀雄の詩碑 (旭川市常磐公園)

そりと住まわれていた。  
一九四七年、中野重治編集によ  
る『流民詩人』が出版される。そ  
の後、『小熊秀雄全詩集』や『小  
熊秀雄全集』などが出版された。  
一九七二年に青山学院大学の卒業  
生に贈られたレコードには「星の  
光りのやうに」が収められている。

卒業生が話し合い「将来も心の支  
えになるもの」を選んだそうだ。  
同作品は一九七九年の中学三年生  
の国語の教科書にも掲載された。  
旭川で詩碑建立、  
小熊秀雄賞が創設される  
一九五八年頃から旭川市の常磐  
公園に小熊の詩碑を造る運動が起  
き、一九六七年について建立され  
た。式典にはつね子さんも出席し  
た。また、建立の募金が余ったこ  
とから、翌年、小熊秀雄賞が創設  
され、以降58回、賞贈呈式と記念  
講演が開催されてきた。この賞は  
詩人の間で大変名譽ある賞となつ  
ている。その間、市民実行委員会  
による詩集の出版、会報の発行、  
講演や詩の朗読会が開催され、小  
熊秀雄の詩は市民の間に徐々に浸  
透していった。  
全国区でも一九七七年には創樹  
社から全集が出版され、岩波文庫  
↑碑には、『現代文学』の追悼号に  
遺稿として発表された詩の一部が刻  
まれている。  
こゝに理想の煉瓦を積み  
こゝに自由のせきを切り  
こゝに生命の畦をつくる  
つかれて寝汗掻くまでに  
夢の中でも耕やさん

